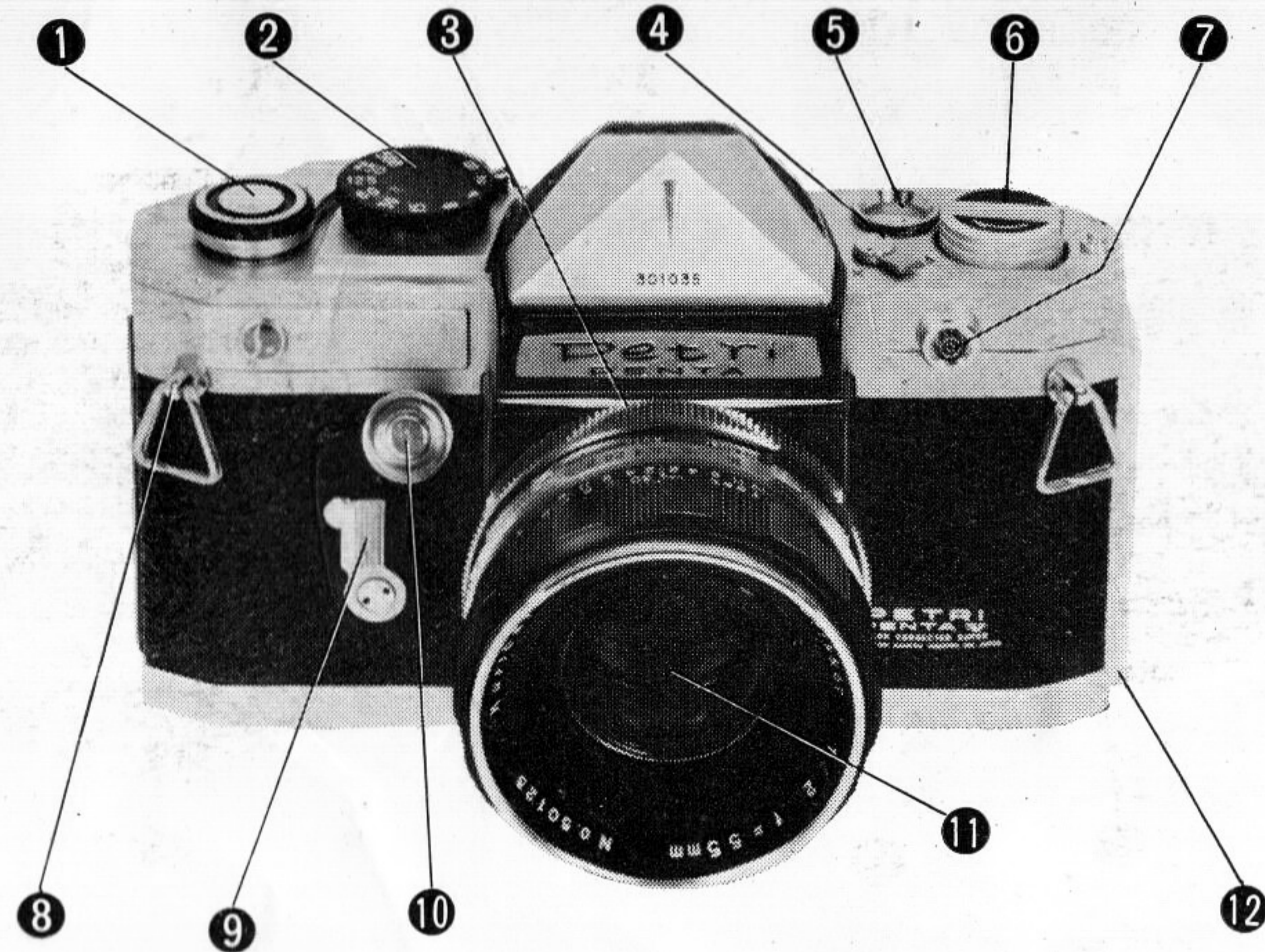


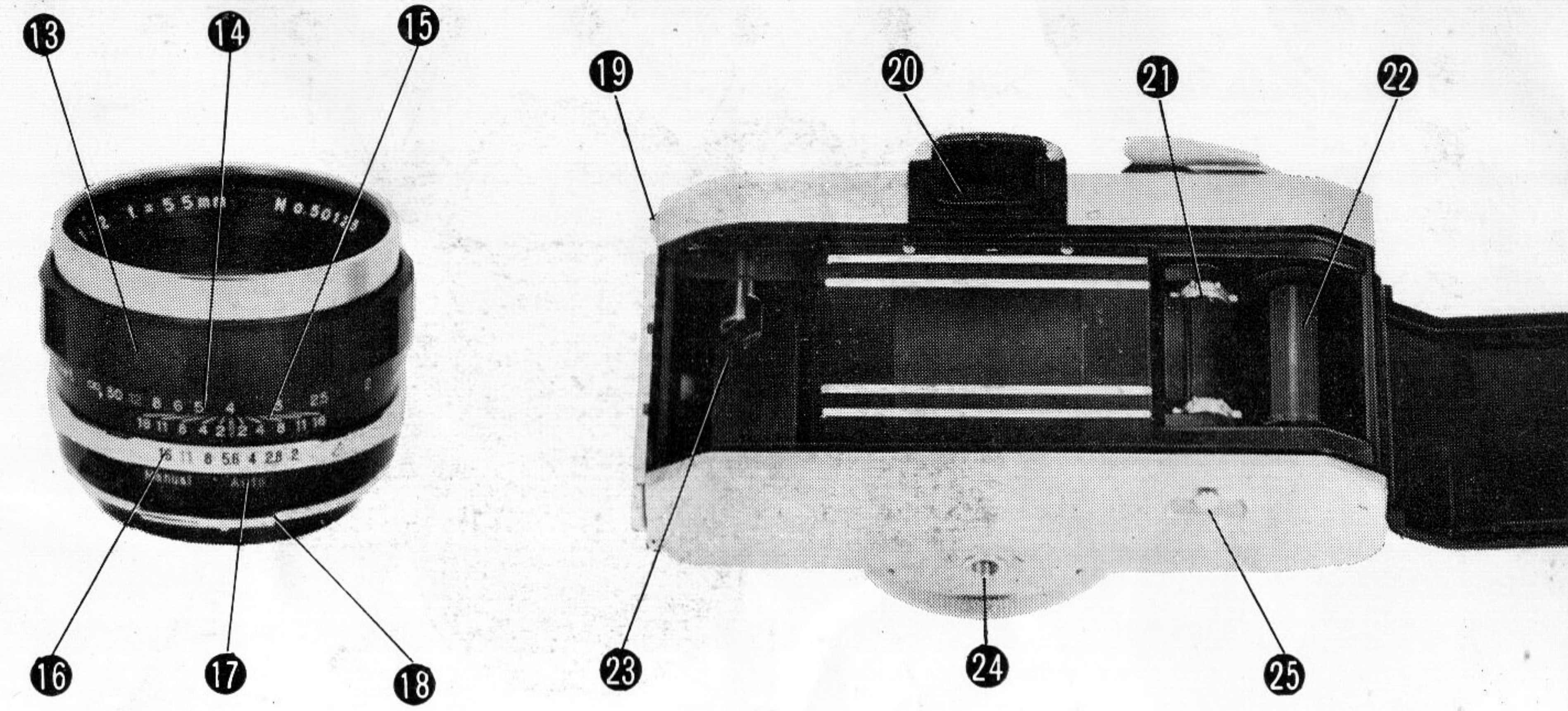
# PETRI PENTA V2

INSTRUCTION BOOK

各部の名称



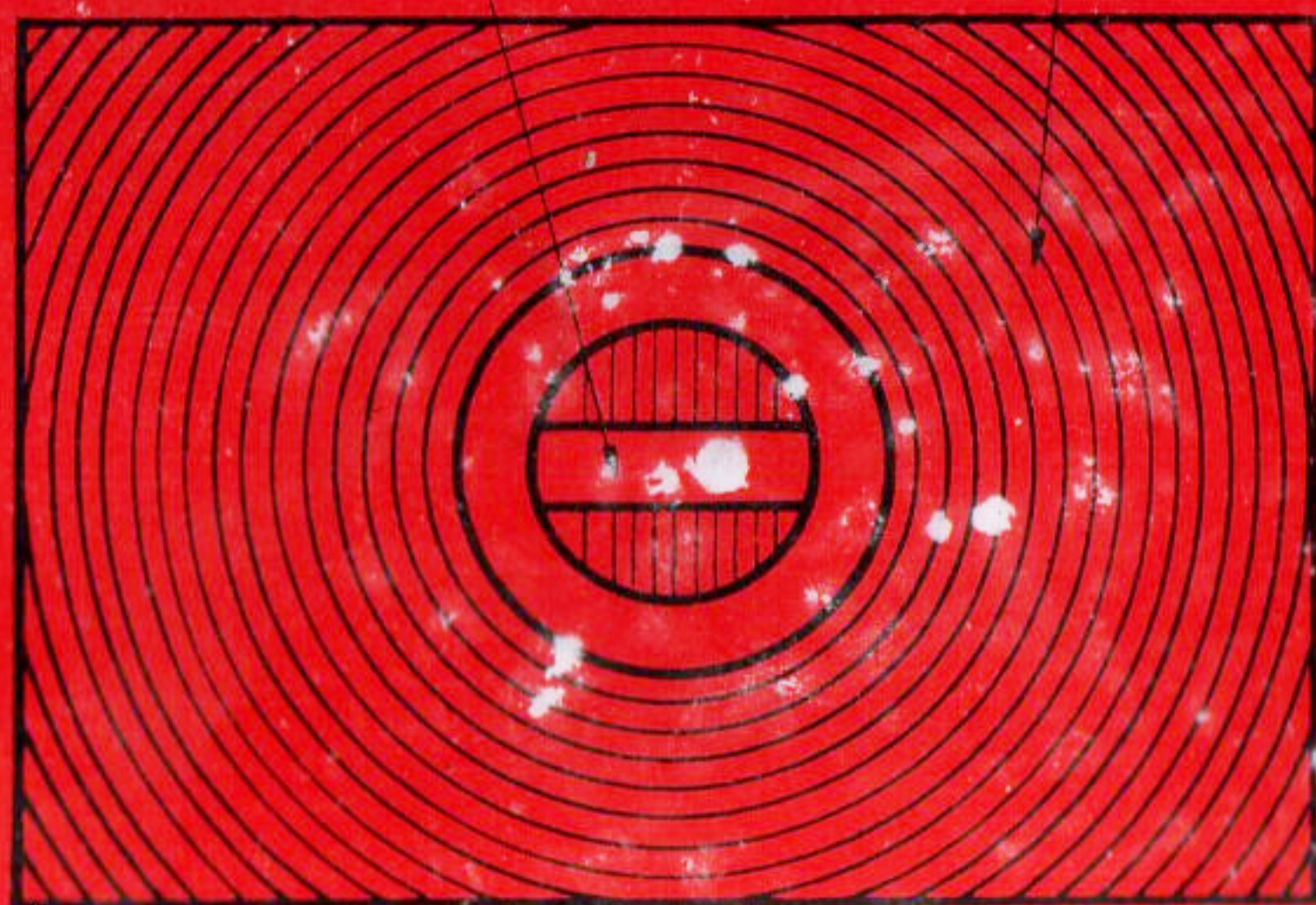
- ①フィルム巻上げレバー
- ②シャッターダイヤル
- ③バヨネット着脱用リング
- ④シンクロ切換レバー (X, FP)
- ⑤フィルム枚数計
- ⑥フィルム巻戻しクランク
- ⑦フラッシュシンクロターミナル
- ⑧吊環
- ⑨セルフタイマーレバー
- ⑩シャッターレリーズボタン



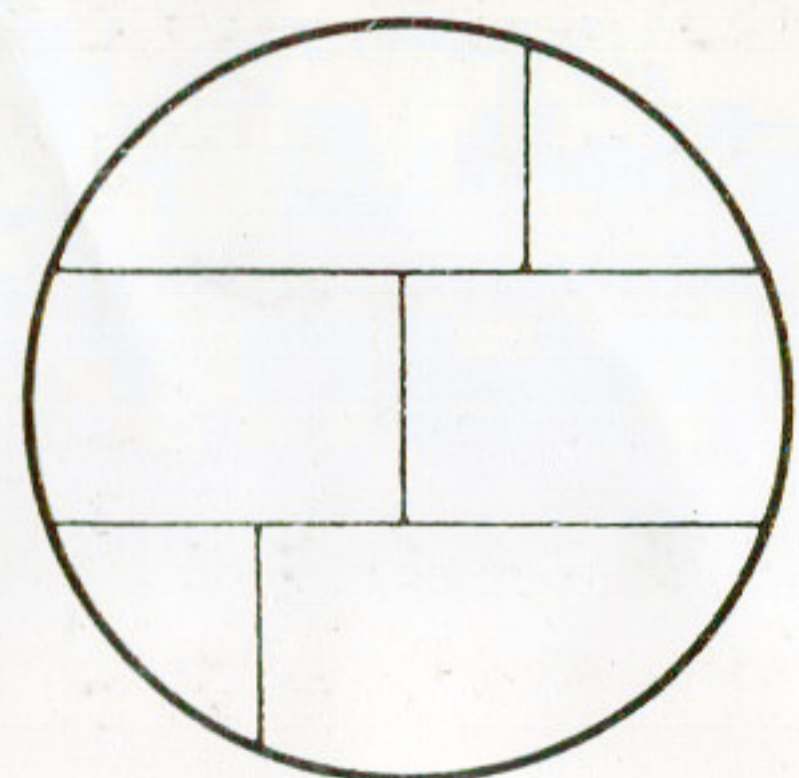
- ⑪F 2 55mm レンズ
- ⑫裏蓋開閉レバー
- ⑬ヘリコイドリング
- ⑭距離目盛
- ⑮被写界深度目盛
- ⑯絞り目盛
- ⑰手動絞り用リング
- ⑱バヨネット
- ⑲アクセサリシュー用ねじ穴
- ⑳アイピース
- ㉑スプロケット
- ㉒巻取りスプール
- ㉓パトローネボックス
- ㉔三脚用ねじ穴
- ㉕リターンボタン

## 焦点の合わせ方

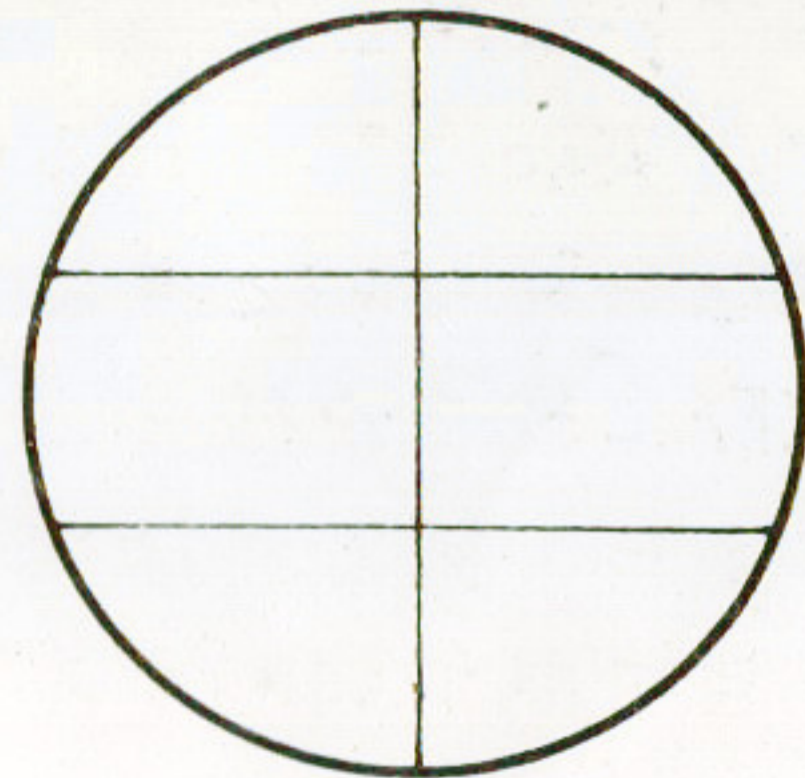
スプリットイメージ フレネル面



●ファインダーをのぞきながらヘリコイドリングを回すと、被写体が鮮明に見える個所があります。こゝが焦点の合ったところ。更に精密なピントはスプリットイメージで合わせて下さい。ファインダー視野の中央にある円形がスプリットイメージです。焦点の合っていないときは中央と上下の像がズレていますが、ヘリコイドリングの回転によって一方の像が動きます。こうして中央と上下像が一致したとき焦点が完全に合ったこととなります(下図参照)。



焦点が合っていないとき



焦点が合ったとき

## 完全自動絞りと手動絞りの操作

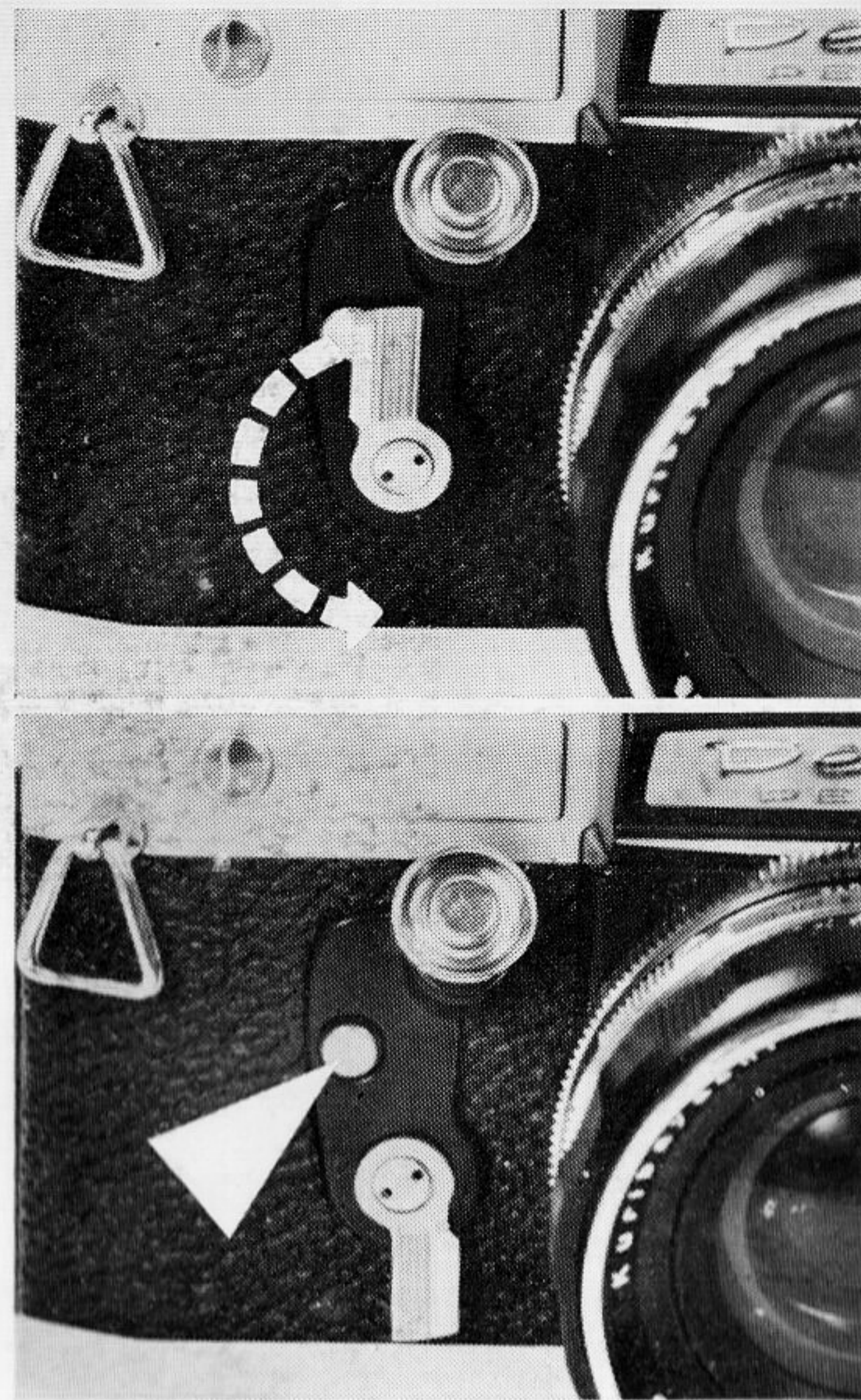
●鏡胴の根本にある手動用の絞りリングをごらん下さい。このリングを回して Auto の文字をカメラの真上にすれば完全自動絞りが働いており、(普段はこの状態にしておきます。) Manual の文字を真上にすれば自動絞りは解除されます。(右の写真参照)

●完全自動絞りはシャッターを切った瞬間だけ所定のF値に絞られますが、常時絞りは開放されています。従って焦点が合わせやすいのですが、実際に写される画像、つまり絞ったときの状態を見たいときは、完全自動絞りを解除し、実際に絞りを絞った上でのぞいて下さい。これによって被写界深度(実用上焦点の合う範囲)を目で見て判断することができます。手動絞りのまゝ撮影しても差支えありません。



## セルフタイマーの使い方

- セルフタイマーレバーを(上図)矢印の方向に180度押し下げ、(下図)に示すセルフタイマーボタンを押すと、セルフタイマーが作動し、約11秒後にシャッターが切れます。
- セルフタイマーの作動時間を短くしたい場合は、途中位置までセットしたままセルフタイマーボタンを押せばよいのです。
- セルフタイマーのセットは、フィルム巻上げ前でも巻上げ後でも構いませんが、セルフタイマーの作動は必ず巻上げた後に行います。この場合はシャッターレリーズボタンに手をふれる必要はありません。
- セルフタイマーはB(バルブ)以外の各速度に使用できます。



## ペトリ交換レンズ

ペトリペンタV2の交換レンズとしては、

F 3.5 35mm(広角)

F 3.5 105mm(長焦点)

F 3.5 135mm(望遠)

F 3.5 180mm(望遠)

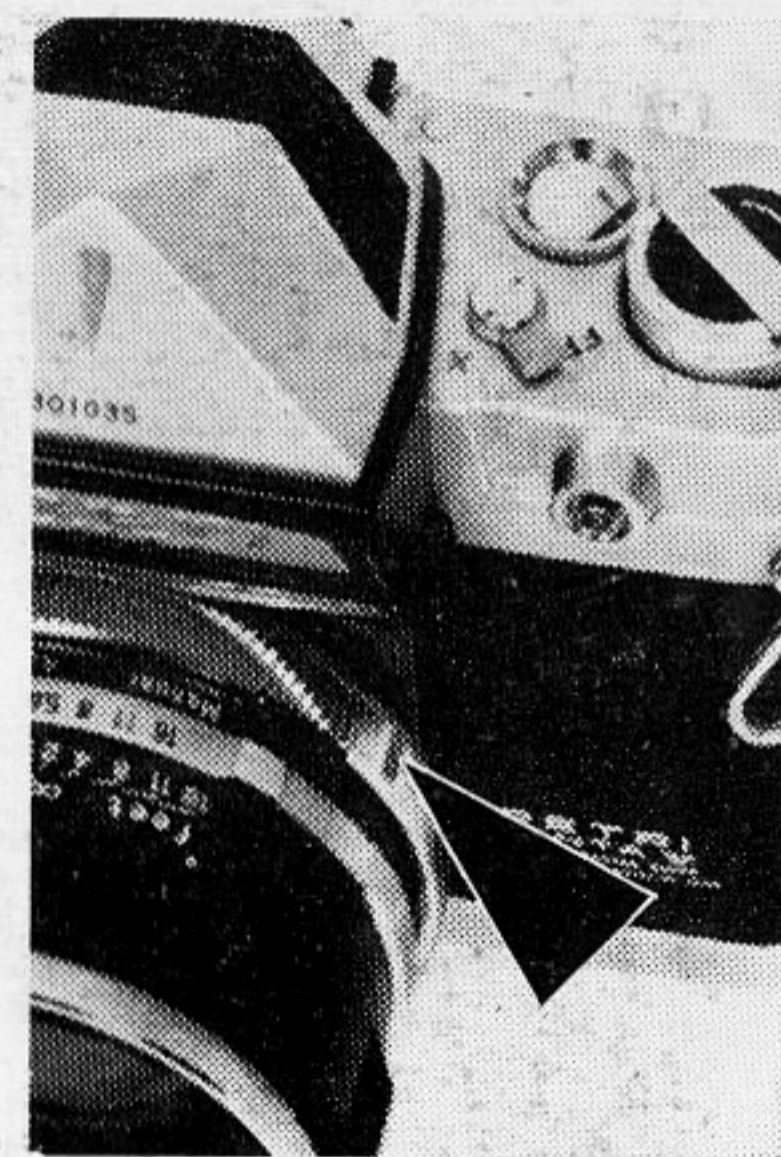
が用意されています。

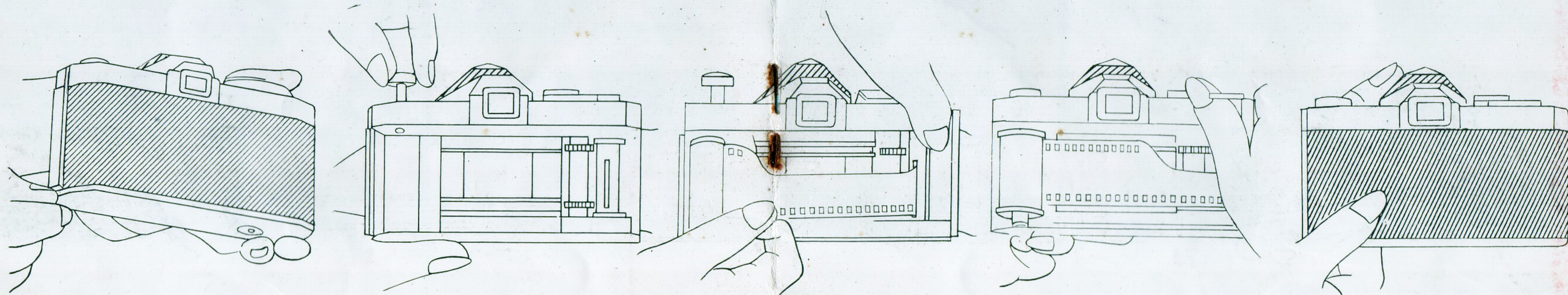
## レンズ交換を行う場合のレンズの取りはずし方

ペトリペンタV2のレンズは、丈夫な3本爪の専用バヨネットマウントを採用、極めて迅速・簡単に着脱されます。

はずす方法は鏡胴基部にあるバヨネット着脱用リングを左へ回し、指標(赤ポチ・写真矢印)を真上にもってくれば、そのまま外すことができます。装着する場合はこれと逆の操作をすればよいのです。

専用の交換レンズならもちろんそのまま、着脱できますが、従来のペトリペンタ用交換レンズ(ねじ込式)でも、アダプターリングを使って取付けることが可能です。





裏蓋をあける

裏蓋開閉レバーに爪をかけて引くと、裏蓋がスプリングの力で開きます。これと同時にフィルム枚数計が0（-3）の位置に自動的に戻ります。

巻戻しクランクを引出す

フィルムの先端を巻取りスプールの溝にさしこみ、先端から2つ目か3つ目のパーフォレーション（フィルムの爪孔）を溝の凸起にひっかけます。

フィルムの先端を巻取りスプールの溝にさしこむ

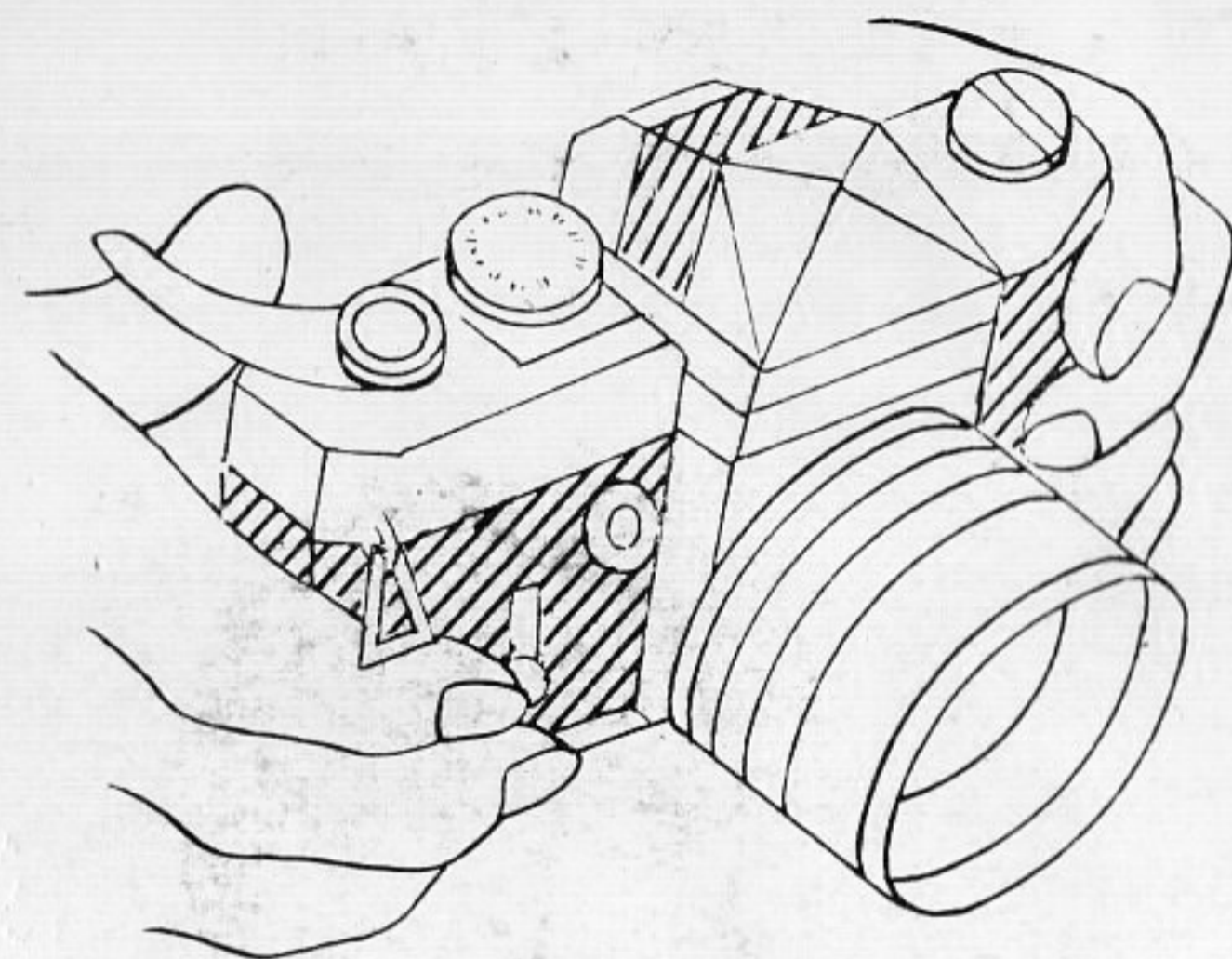
巻戻しクランクをつまんで、止まるところで引出します。これでパトローネボックスにパトローネ入りフィルムを納めることができます。

巻上げレバーを操作する

巻上げレバーを操作して、巻取りスプールにフィルムを1回転巻いてみます。

裏蓋を閉める

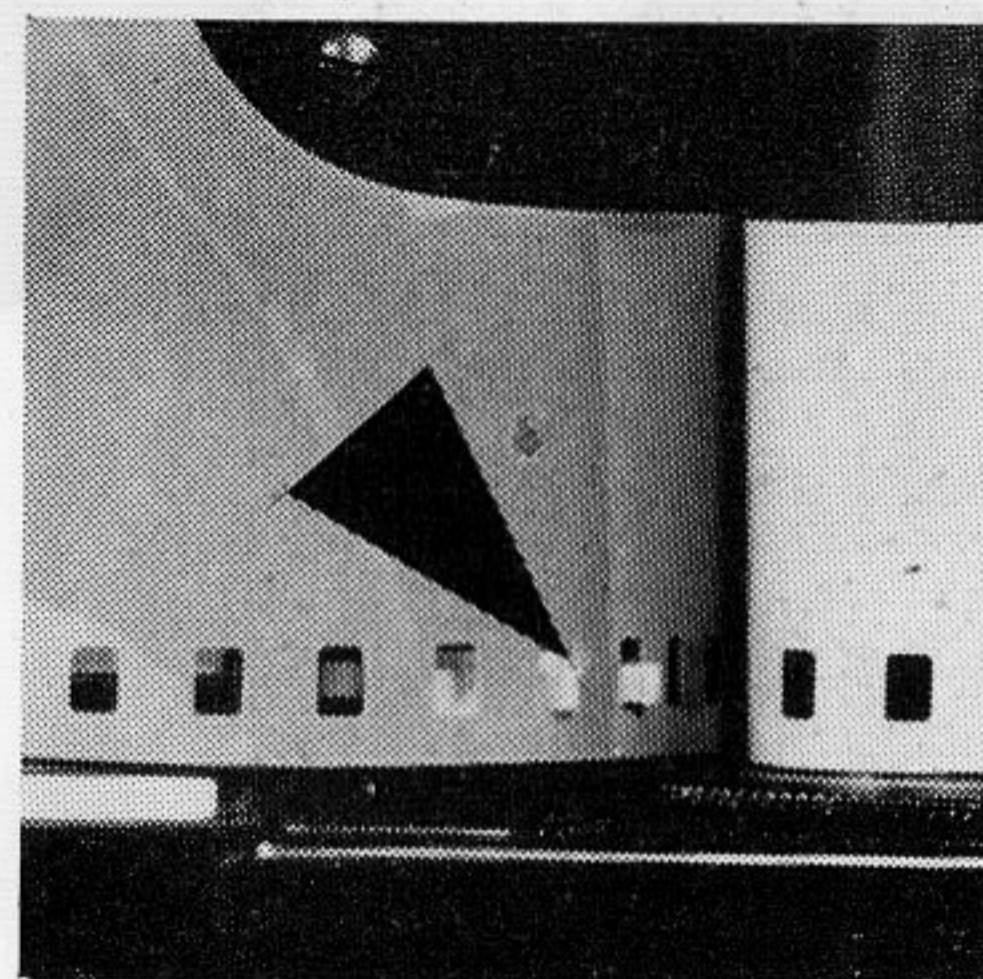
裏蓋を閉めて押せばパチンと自動的に閉まります。シャッターボタンを押して、シャッターを切ります。



### フィルム枚数計がS印になるまで空写しする

レバーを巻上げシャッターを切ります。これでフィルムが完全に装てんされました。撮影直前にもう一度フィルムを巻上げればよいのです。

装てん中はフィルム枚数計はA図のように0（-3の位置）に戻っていますが、フィルムが装てんされ2回巻上げて撮影状態になったときは、2目盛進んでB図のようにSに合っています。

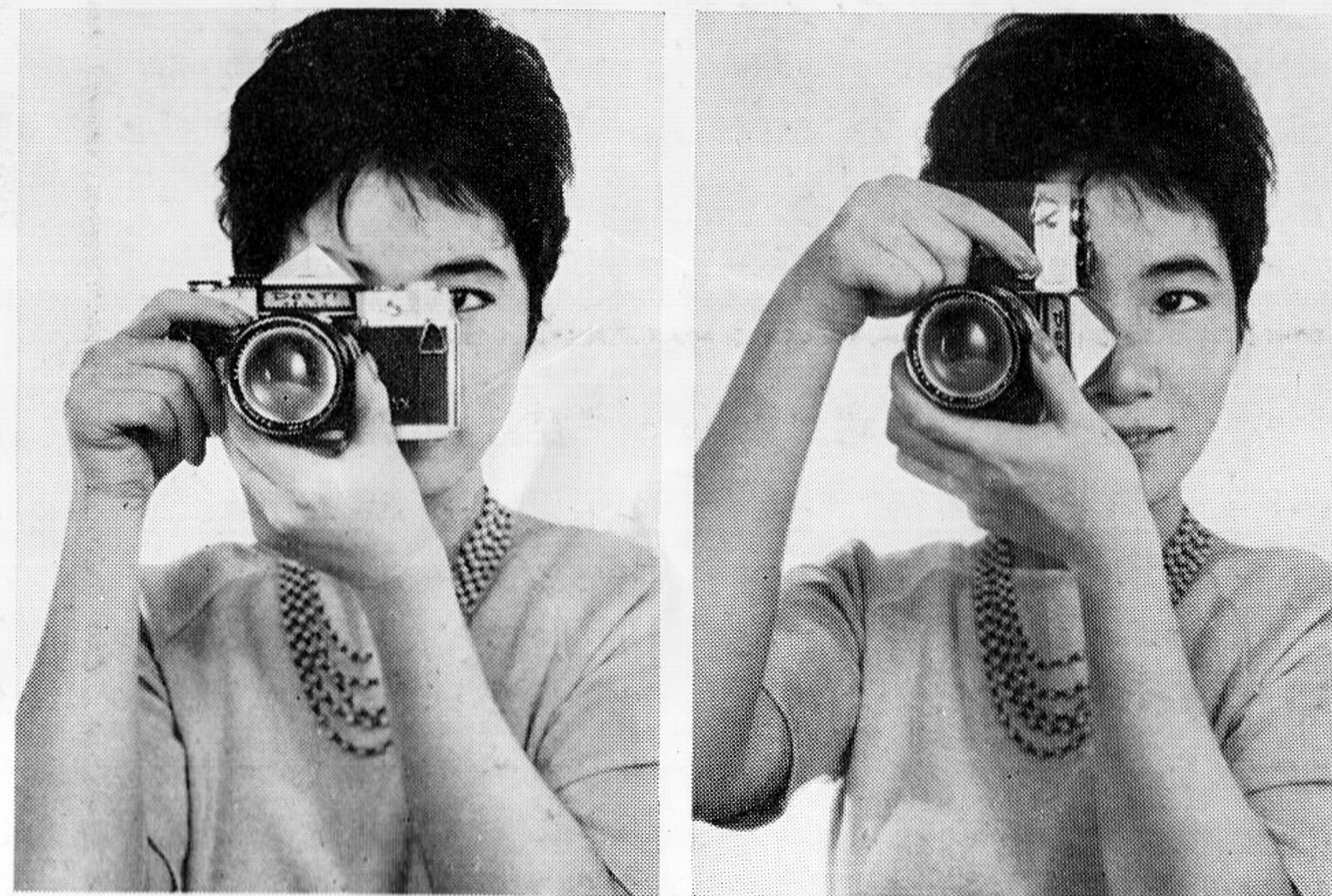


### パーフォレーションの状態

パーフォレーションはスプロケットの歯に完全にかみ合っていないと、十分に確認して下さい。

## ペトリペンタV2の構え方

右手はしっかりとカメラのボデーを持ち、人差指が斜角30度のシャッターボタンに軽くふれ、いつでもシャッターが切れるようにしておきます。左手は下からレンズの鏡胴を支え、無理なく焦点調節ができるようにヘリコイドリングを保持します



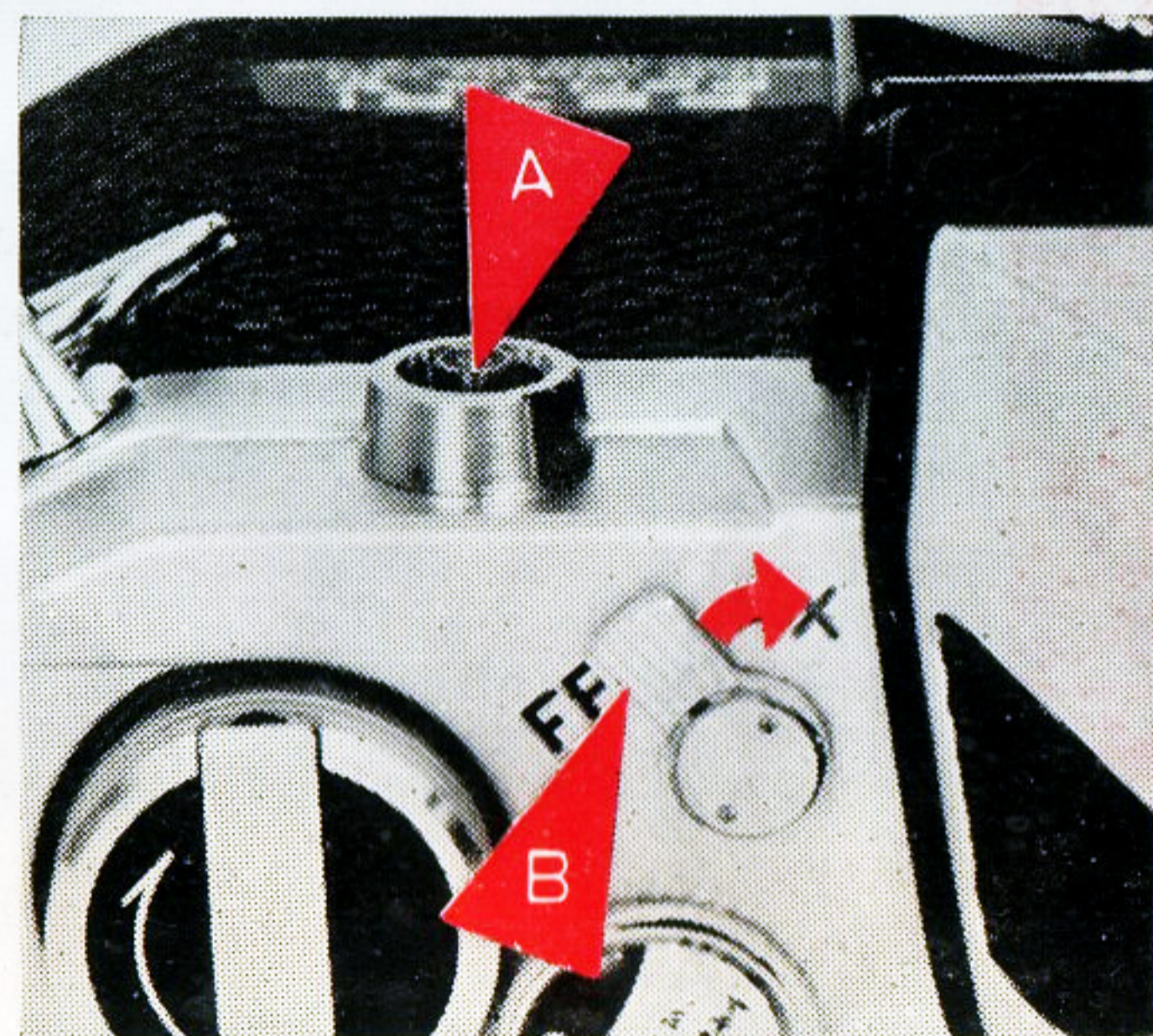
## シンクロ撮影

### 使用表

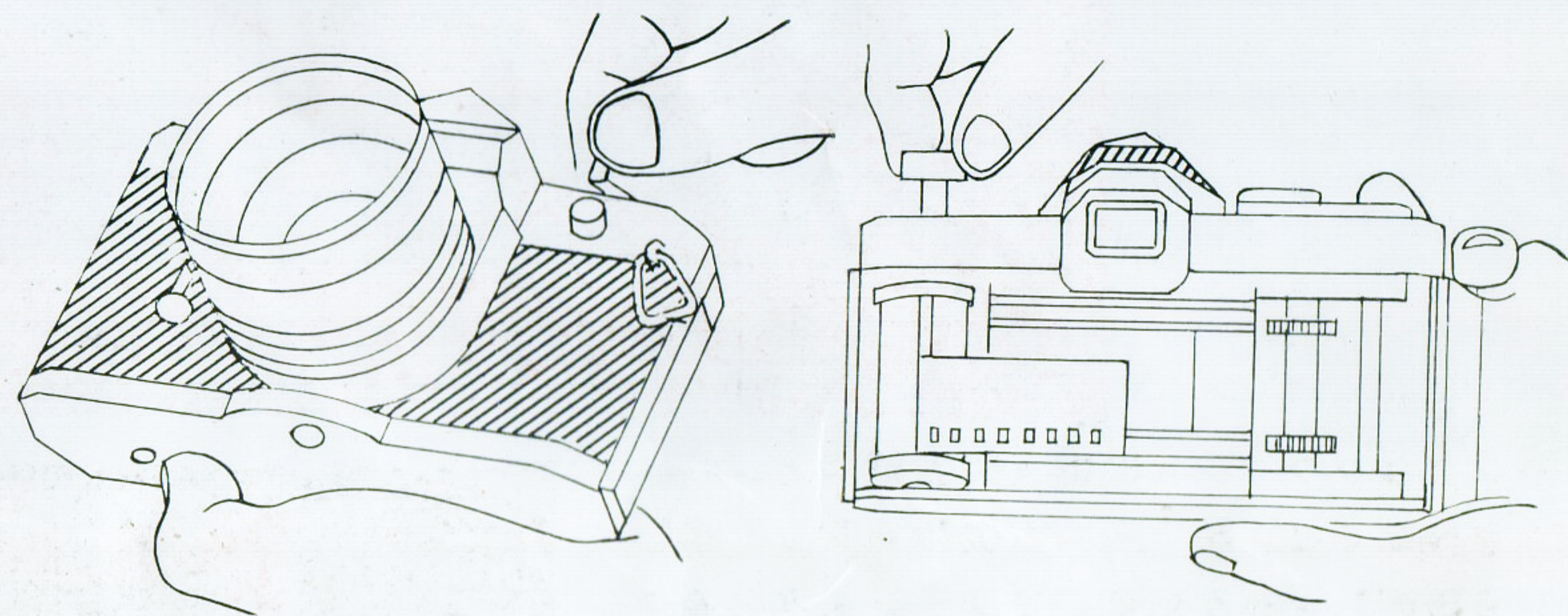
切 換 レ バ ー	$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{60}$	X	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}$	B
F P	F P クラス (ねじ込み式)										
	FPクラス(さし込み式)										
X						F クラス					
						M クラス					
						ス ト ロ ボ					

シンクロフラッシュ撮影（閃光電球とシャッターを同調させ、暗い所でも動体を明るく写しとめる撮影）を行うには、フラッシュガンのコードを、図Aのシンクロターミナルに接続します。この場合固定したペンタアクセサリシューにフラッシュガンを取付けると便利です。

次に使用する閃光電球がFクラス、Mクラスまたはストロボの場合はシンクロ切換レバーをXに合わせ、またFPクラスの閃光電球を用いる場合は、図BのようにFPに合わせます。



## フィルムの出し方



### フィルムを巻戻す

カメラ底部のリターンボタンを押したまゝ、巻戻しクランクを起して矢印の方向に回転します。これでフィルムはパトローネの中に巻戻されてゆきます。

### フィルムを取出す

完全に巻き戻したら裏蓋を開き、巻戻しクランクを引き出してパトローネを取り出します。フィルムが巻取りスプールからはずれると回転が急に軽くなるので分ります。

ペトリ F2 50mm  
被写界深度表

F No. feet	2	2.8	4	5.6	8	11	16
1.75	1.72 1.79	1.71 1.80	1.69 1.82	1.67 1.85	1.63 1.89	1.59 1.95	1.53 2.05
2	1.96 2.04	1.94 2.06	1.92 2.09	1.89 2.13	1.84 2.19	1.79 2.27	1.76 2.41
2.5	2.43 2.57	2.41 2.60	2.37 2.65	2.33 2.70	2.26 2.80	2.17 2.94	2.05 3.19
3	2.91 3.11	2.87 3.14	2.82 3.22	2.75 3.31	2.65 3.46	2.54 3.66	2.38 4.08
4	3.83 4.18	3.76 4.27	3.68 4.39	3.56 4.57	3.39 4.88	3.22 5.29	2.95 6.21
5	4.74 5.29	4.63 5.43	4.48 5.65	4.31 5.95	4.08 6.45	3.82 7.25	3.45 9.09
6	5.65 6.45	5.49 6.67	5.29 6.99	5.05 7.46	4.74 8.26	4.39 9.62	3.89 13.33
8	7.35 8.77	7.09 9.17	6.76 9.80	6.37 12.05	5.86 12.66	5.32 16.13	4.65 31.14
12	10.64 13.89	10.10 14.93	9.43 16.67	8.70 19.61	7.75 27.03	6.85 50.00	5.71 31.14
30	22.22 47.62	20.41 58.80	17.80 100	15.38 ∞	12.66 ∞	10.31 ∞	7.49 ∞
∞	83.33 ∞	62.50 ∞	43.48 ∞	30.30 ∞	21.28 ∞	15.63 ∞	10.75 ∞

ペトリ接写リング

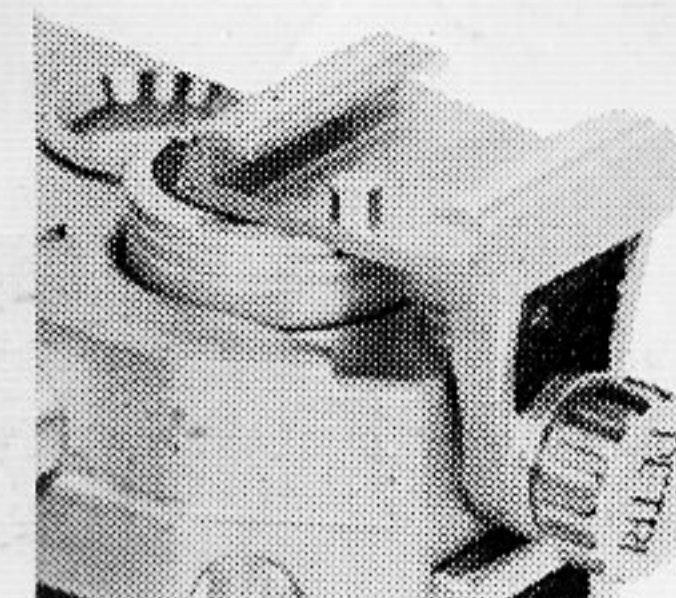


ペトリペンタV2のレンズとボデーの間に接写リングを用いますと、小物体の接写や複写がたのしめます。

接写リングには、1号、2号、3号とそれぞれ厚さのちがう3種類があって、マウントリングと共に、単独あるいは組合わせて使えば、あらゆるサイズの接写ができます。

この他交換レンズ用のアダプターリングがあります。

ペンタアクセサリシュー



ペトリペンタV2の側面にあるアクセサリシュー用ねじ孔にねじ止めして、巻戻しクランクの上に固定できる専用アクセサリシューで、フラッシュガンなどを取付けるのに用います。

取付が簡便で安定性のよい便利なアクセサリですから是非1台に1個ご用意されるようおすすめいたします。

ペトリペンタVフード

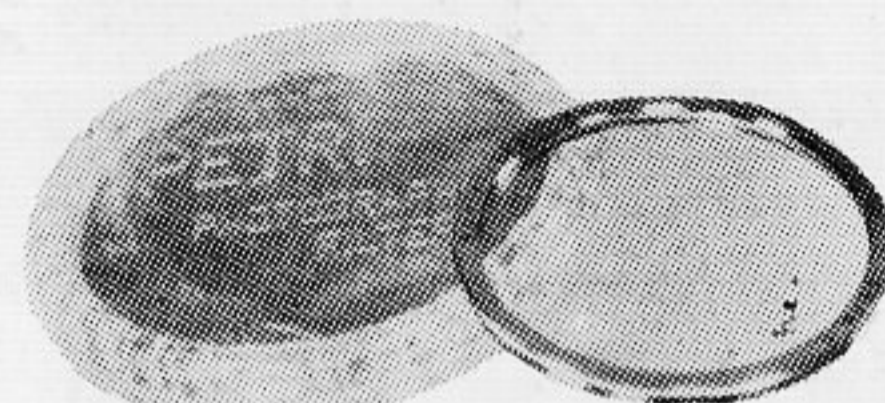


軽合金使用のスマートな丸型、止ネジ式レンズフードで着脱が確実です。

内面反射防止が完全ですから、レンズの写角以外からの有害な乱反射を除き、美しい写真が写せます。

丸型ですから取付けの角度を心配する必要もありません。美しい革ケースに入っています。

ペトリペンタVフィルター



戸外人物や風景を自然な感じに写す黄色系のY1, Y2フィルター、遠景や航空写真に使うコントラスト効果をあげる橙色のYA3, 赤色のR1フィルター、人物の皮膚感をよく出す緑色のPO1フィルターの他紫外線カット用のH-UV, カラー用としてW4, C4, C8, C12の各種が用意されています。



PETRI PETRI PETRI PETRI  
PETRI PETRI  
PETRI PETRI JAPAN  
PETRI PETRI



**ペトリカメラ東京センター** 東京都千代田区九段2-5

**ペトリカメラ大阪センター** 大阪市南区鰻谷西ノ町11-4

**栗林写真工業株式会社**

東京・ニューヨーク・カナダ・オランダ